

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和2年12月25日

三原市立大和小学校 柏原 真由美（派遣園：広島大学附属三原幼稚園）

1学期号では、環境構成や教師の援助の工夫によって、子供たちが遊びを通してどのような学びをしているのかについてお伝えしました。この2学期号では、園で主体的に遊ぶ子供たちの姿を通して、小学校でどのように学びをつなげばよいのかについてまとめました。幼児期の学びをつなげるためのスタートカリキュラム作成において、重視したい点を大きく3点挙げました。

1 2学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・校内研修（子供と共に遊びや生活を創る環境構成）
- ・保育部会（保育参観に基づく指導，エピソード研修）
- ・幼小接続期部会（広島大学附属三原幼・小合同部会）
- ・幼児教育アドバイザー訪問指導

(2) 園外研修

- ・幼児教育に係る研修会（0～2歳児参観）
- ・接続に係る研修会
- ・幼保小連携担当者教員研修会
- ・幼小交流学习参観
- ・所属校に入学してくる園児の実態把握

2 研修を通して

年長組の畑の野菜が、カラスによって食べられてしまっていることを知った子供たち。カラスが来ないように看板を描き、みんなで高い所に取り付けます。もっとできることはないかと話し合い、新たな対策も生まれました。主体的に遊び、学ぶ子供たちの姿です。



幼児期に育まれた主体的に遊び、学ぶ力を
小学校へつなげていきます！

学びをつなげるスタートカリキュラム

保育者は、「看板を作りたい」という子供たちの**思いに寄り添い**、十分な**時間を保障**していました。どんな考えも否定せず、**受容的な態度**で接し活動を見守ることで、子供たちは**安心して**自己を発揮していました。

安心して
活動できる
弾力的な時間の設定

登校して支度を済ませたら、自分で**選んだ遊び**を行ったり、**園で親しんだ活動**を取り入れ交流したりして、一日を**楽しい気持ち**で**スタート**できるようにします。教師は**笑顔**で接し、**安心感**が持てるようにします。

ひらがなが上手く書けない子も、「カラスにわかるように書こう」と**意欲**を持ち、**目的意識**を持って文字を書いています。また、**試行錯誤**しながら看板を貼る姿があり、**思いや願い**を持って活動していました。

思いや願いの
実現に向けた
主体的な学習

子供たちの**思いや願い**から学習が始まり、**疑問を解決**するために、主体的に活動できるような単元を計画します。「分かった！」の積み重ねで、**満足感・達成感**が得られるよう、**つぶやき**を受け止め、活動を見守ります。

振り返りの時間では、「カラスから野菜を守りたい」と、一人一人が**自分事**として考え、**思いを共有**する場となりました。「他にもアイデアがあるかな？」と**伝え合う**中で、**新たな活動**が広がっていました。

伝え合い
交流する中での
対話的学び

学習の**振り返り**を行い、次時の学習につなげます。また、子供たちに**疑問や困り感**が出てきた瞬間を逃さず、「どう思う？」「どうしたらいいかな？」と問いかけ、**自分たちで考え、解決**していくことを大切にします。

3 まとめ

幼児期に育まれる資質・能力を踏まえ、子供たちが安心して自己を発揮できるようにカリキュラムを計画する必要があると考えます。そのためには、子供の思いや願いに耳を傾ける支援を行ったり、自分で選び、繰り返し試せるような環境を整えたりすることで、子供たちが主体的に学ぶことが大切だと考えます。次年度に向けて、幼児期で育ってきた主体的な学びをつないでいくための、生活科を中心とした単元計画の作成を行い、スタートカリキュラムの改善に取り組んでいきます。

〈乳幼児教育支援センターより〉

小学校では、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施する必要があります。幼児期の学びとは何か、資質・能力を踏まえる際の環境（人・もの・こと）をどう考えるかがポイントになります。これらの視点で連携・接続を進めていきましょう。